

甲斐の金山から

平成27年12月27日 第74号

博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡／湯之奥・中山金山 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報

2016年1月2日(土)から新春開館!
まってるもーん♪



2015年最後を飾る博物館広報誌「館だより74号」表紙は、11月14日(土)にお迎えした34万人目のお客様・千野久美子さんとご主人様。とっても喜んでくださり、もーん父さんもつつい嬉しくなっちゃう♪(関連記事5ページ)

さて、2016年はいつもどおり、1月2日(土)から開館いたします。お正月耳より情報としては、開館初日から4日(月)の3日間、チケットご購入のお客様先着200名様には、もれなく今年の干支「申年」にちなんだお守りくじをプレゼント。子供たちには縁起のよいクジ引き給もありますよ。

売店では博物館オリジナルの福袋を各種ご用意しております。また、今年は「ビックリ!砂金缶」お正月バージョンも登場。なんと特大砂金入りの“福缶”をご用意いたしました。子供たちへのお年玉代わりにいかがでしょう。いずれも数に限りがありますのでお早目のご購入をおすすめします。

砂金採り体験室では、これまた恒例「古銭GETで金銀たまこくじ」!体験時に、砂の中から古銭をGETした方は、たまこの中に入っている景品がもらえるくじ引きチャンス!お正月も、そしてお正月が終わっても金山博物館へ遊びにきてください。

国指定史跡・甲斐金山遺跡 「黒川金山・中山金山」への 「内山・茅小屋」両金山の追加指定への道筋

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 谷口一夫

湯之奥中山金山遺跡は甲州市黒川金山と共に、平成9年に甲斐金山遺跡（黒川金山・中山金山）として国指定史跡に登録された。当時、文化庁では国指定史跡・甲斐金山遺跡（…金山、…金山）との名称が使われたが、その意図には戦国期以降の金山遺跡をもつ甲斐金山から、今後、価値が実証された重要な金山遺跡から、順次「甲斐金山遺跡」の名のもとに追加指定可能な史跡名称にしてあるとの意向だった。

その価値を立証するには、まず歴史を実証しなければならない。中山金山で実施された調査時に関連して内山、茅小屋も踏査されテラスなどは「縄張り図」が作成され、遺跡の概略は把握されていたが、さらに綿密な金山域総体のテラスを含めた地形図の作成がまず基本となる。

幸い平成21年度には茅小屋金山、平成22年度には内山金山の綿密な測量図が作成されたが、その道のりも平素からの館活動がある。小松美鈴学芸員を中心に博物館リーダーや職員は頻繁に両金山への登攀を試みた。その中で、土石流でいつ金山が消滅するかの危機感も背景にあった。

測量調査は中山金山以来、測量を担った森谷氏、当初から中山金山の発掘に携わった帝京大文化財研究所研究員の宮澤・榎原両氏、またこの1年余り、内山金山における調査において、

松江高専の久間英樹教授による坑道レーダー測量の図面づくりが加わるなど、実地踏査は継続して続けられ、茅小屋、内山両金山のテラスの範囲と採鉱域など新たな発見も加え、遺跡全体の構造はかなり克明に把握されてきた。

今後は金山衆集団の性格を含め、操業年代や産金技術などの解明を文献、民俗学、それに考古学による発掘調査を踏まえながら、主要テラスの性格（採鉱域、作業域、操業年代、生活居住空間などの姿）にメスを入れる必要がある。発掘調査は不可欠で、出土遺物からはいろいろな情報が科学的に得られ、確実にテラスなどの性格は把握できる。陶磁器類によって操業年代の同定も可能となる。

特に湯之奥3金山は、中山→内山→茅小屋の順で連続して繋がっていたと想定しているが、これらも考古、文献、民俗学、鉱山技術史などの諸学との学際的な連携での調査でその実証が必要だと考える。

道筋とすれば、やはり中山金山で実施されたような総合調査に準じた作業が少なくとも求められるが、現実問題として財政や調査員体制はそんなに甘くなく、その方向で3～5年位かけても、小規模調査の積み上げによる方向で模索し、その調査結果を公開したい。

日本鉱業史研究会現地研究会が開催されました

9月26日(土)

戦国時代及び江戸時代初期の日本の金鉱業に大きな足跡を残した湯之奥金山地域の歴史、特に鉱業技術について研究を深めることを目的とした「日本鉱業史研究会」主催の研究会が、去る9月26日(土)・27日(日)の2日間にわたり開催されました。

井澤英二先生が会長を務められる鉱業史研究会は、常に活発な研究活動をされており、そうした中、今年は「甲斐の金山遺跡」をテーマとしたことで、金山博物館がメイン会場となりました。1日目は午前中早朝から湯之奥・茅小屋金山遺跡見学会を行い、その日の午後1時から博物館で研究発表会を行いました。岐阜県、新潟県、福岡県など、県内外から50人以上の聴講者の皆様が足を運んでくださいました。

パネリストは7名で、谷口館長が開会の挨拶とともに湯之奥金山の概要について発言し発表会が始まりました。鉱山白については萩原三雄先生が、また、久間英樹先生(松江高専)・中西哲也先生(九州大学)は、内山金山坑道調査および鉱山白の3次元レーザー測量に関し

て発表され、小松学芸員が甲州金について、博物館応援団からも砂金採取に関するテーマで天野直人氏、広瀬義朗氏のお二人が発表した幅広いテーマでの研究集会となりました。こうした発表会をきっかけにまた新たな分野の方々に湯之奥を知っていただき、さらに評価をいただくことも出来ました。

翌日は、早川町の老平金山の遺跡見学会を行い、合わせて、この早川という地域の伝統技術でもあり名産でもある雨畑硯についても知識を深めました。その際は硯匠庵の天野元さんに懇切丁寧なご案内をいただき、参加者皆が大満足するような内容で現地研究会を終えることができました。



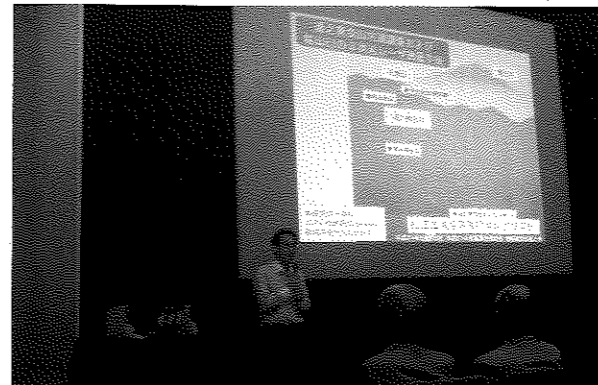
老平金山へ出発



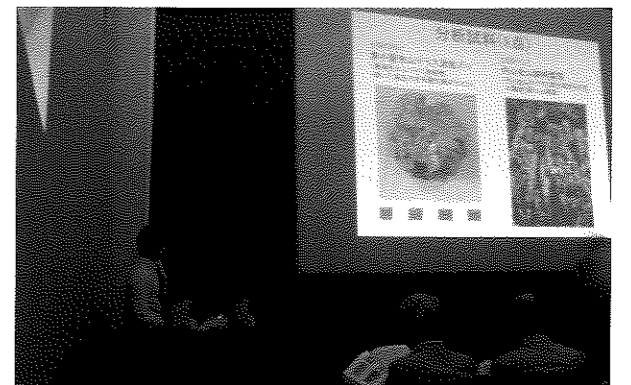
谷口館長挨拶



井澤英二先生



久間英樹先生



中西哲也先生

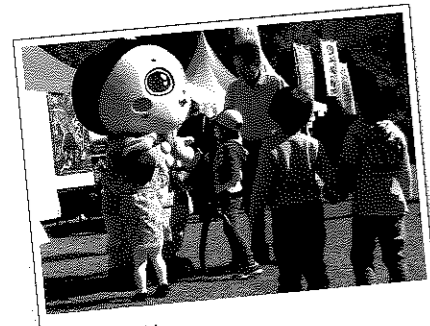
特に秋によく見かけます。もーん父さん活動日記

博物館を、身延町をもっとPRして盛り上げて応援していきたい。そしてみんながちょっと笑顔になってほしい。そんな思いで活動中のもーん父さん。今年も、あっちこちに大忙し。特に秋の運動会シーズンは依頼殺到。お声がけいただいた皆様、もーん父さんも喜んでおります。ありがとうございます。今年のゆるキャラグランプリエントリーでは、最終結果1622体中917位ということになりました。来年もエントリーしますので、その際には皆様の応援と投票、引き続き宜

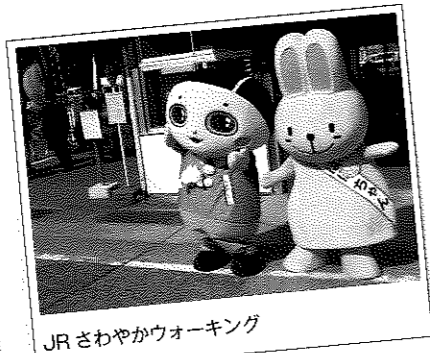
しくお願いいたします。

さてさて、そんなもーん父さん、おかげさまで最近では、歩いていると「あっ、もーん父さんだ!」と言ってもらえるようになりました。町内の運動会・TV番組・お祭り、そして秋の防犯運動まで、いろいろなところにお出かけしています。

もし見かけたら皆様の温かい声援をよろしくお願ひ申し上げます。くれぐれも決して叩いたり蹴飛ばしたりしないでくださいね。



みのぶまつり



JRさわやかウォーキング



おまわりさんと一緒に犯罪撲滅キャンペーンもやったよ☆



しもべ荘秋祭り



みんなと一緒にみこしわっしょい



原小学校運動会



秋のゆるキャラ運動会での勇姿!?



大歓迎してもらったんだ☆



波高島のお祭り



犯罪撲滅キャンペーン



富士山トレインみのぶ号、菱丸と一緒に外出迎え



保育園のお友達にもあったよ☆

平成27年度 湯之奥金山博物館運営委員会開催

10月27日(火)

平成27年度湯之奥金山博物館運営委員会が、去る10月27日に開催されました。夏イベントを経て上半期が終わって少し経過した中での報告ということもあり、27年度夏の博物館運営状況ならびに事業報告、そして年度内に予定されてい

る事業を報告しました。

委員の先生方からは「少人数スタッフで大変な事業をよくやっている」という率直な感想と共に、博物館の今後の課題についても議論され、博物館の運営方針として示されました。

有料入館者34万人目は千野さんご夫妻 (沼津市)

11月14日(土)

テレビ効果もあり順調に入館者数を伸ばしてきた今年、2回目の記念有料入館者のお客様をお迎えすることが



出来ました。6月14日に33万人目のお客様を迎えておりますので、およそ5か月で1万人のお客様をお迎えできたこととなります。この幸運に巡り会ったのは沼津からお越しの千野さんご夫妻。いつも砂金採りにきてくださる常連さんです。思いがけない出来事に、奥様は大喜びしてくださいました。

麓金山遺跡調査

11月28日(土)

毛無山の静岡県側に位置する麓金山も、湯之奥3金山と同様、継続的な調査を行っています。

松江高専の久間英樹先生と麓金山に現地調査に行くのはちょうど1年ぶりのことです。既に知られている麓金山の坑道の測量調査と、今年の夏、東京農大のオープンカレッジの現地調査の際に発見した新坑道の実測調査を兼ねて現地に行きましたが、前回の雨と打って変わって今回は晴天に恵まれ、貴重なデータを取っていただくことができました。

湯之奥中山金山がおよそ1400m付近から遺跡が広がり、作業域・生活域・墓域などがコンパクトに集約されているテラスの有り様を見せているのに対して、麓金山は、1200m付近から石積みとテラス、露頭掘り跡がみられ、さらに、山に対して横への広がりというよりも、縦に長く広

がっているように見えます。この1200m付近よりも低い位置にも間掘り跡が確認できる場所があり、麓金山の遺構の広がりや中山のそれと比べて低位置になる可能性があり、やはり湯之奥と大きく異なるように見えます。そうした中、大きな露頭掘り跡や坑道など、新発見の場所をいくつか確認し、時間が許す限りデータ採取をしました。もっとも長い坑道の奥は、近代の本坑道に続くように見えますが、ここから先はまた次回に持ち越しということで今年の麓の調査を終えました。久間先生は、また暖かくなった頃の調査再開を決め、下山しました。またこの調査報告は、2月のフォーラムの際にも取り上げられる予定ですのでお楽しみに。



山の考古学研究発表会

12月5日(土)

「山の考古学研究発表会」では博物館を会場に研究発表会が行われました。研究会翌日は、毛無山登山、さらに3日目には七面山に有志が登山し、赤沢宿見学後散会となりました。会員の皆様のご感想は、充実した研究会で非常に有意義な時

間となったようです。会場となった当館としても嬉しい感想でした。

なお、このような活動の場の提供は要相談で対応しておりますので、当館までお問い合わせください。

佐竹藩金山遺跡・栃原金山見学バスツアー

12月6日(日)

特に山深い所に位置する金山遺跡という特性上、個人ではなかなか現場へ赴くことが難しいことから金山遺跡見学会を開催しておりますが、今般は、茨城県内の金山遺跡に焦点を当て、“本州唯一の現代操業の金山”だった栃原金山を中心に、戦国時代・佐竹藩の金山遺構見学を実施しました。町内外から30人以上の方々がお集まりくださり、見学会は大盛況となりました。

片道約4時間半程かかる行程でしたが、当日は晴天に恵まれ、定刻どおりに到着し、講師の皆さんと合流しました。現地は、常陸大宮市文書館学芸員の高村恵美氏、文化財担当の萩野谷悟先生、東京の研究家・大森直之さんにご案内いただきましたが、まず全員あじさい号に乗り、高村学芸員と萩野谷先生に解説をいただきながら栃原金山現地まで移動しました。ここで稼業当時を知る大森さんに解説いただきました。栃原金山では、通常では目にすることのできない鉱業機械などが多々残されており、皆、説明を聞きながら興味津々で見学していました。

実は今回講師として受けてくださった3人の方々は、この見学会の依頼を受けてから、綿密な事前準備を進めてくださり、道の整備や下草刈り、石臼を所有している方々への見学交渉など、準備に随分な時間を割いてくださっており、また現地でも大変歓迎していただいた上に、熱のこもった解説をしてくださったので、参

加者からも大変好評をいただきました。

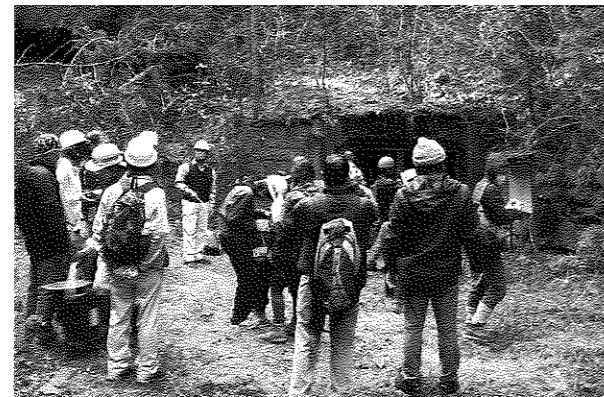
また、こちらからの参加者だけでなく、地元の方々もご参加くださり、中でも佐藤 淳さん（茨城県在住）からは、参加者全員に現在ではまず採集できない玉川の赤瑪瑙をお土産に、また博物館には肉眼で金を確認できる栃原金山の鉱石をご寄贈いただきました。こちらは展示室で公開予定ですので楽しみに…。

閉会式後、講師の皆さんはあじさい号が出るまでお見送りをしてくださいました。

これを契機にお互い金山遺跡を持つ地域同士、情報交換しながら、さらに金山研究を深化させていきたいと思います。



栃原金山入り口



栃原金山坑道前



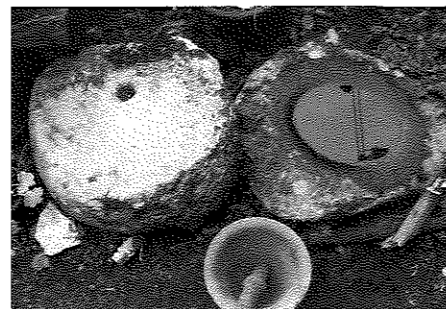
記念碑の解説をしてくださる萩野谷沙先生



あじさい号で移動しました

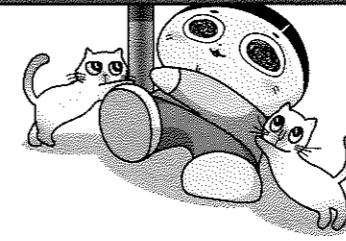


栃原金山稼業時に販売されていたパンニング皿を見せてくれる大森さん



民家の庭先に残る石臼

博物館事業のお知らせ



「誰でも参加できる気軽な発表会」がコンセプト!

第4回「金山遺跡・砂金研究フォーラム」のお知らせ

期 日：平成28年2月13日(土) 午後1時～午後4時55分まで
場 所：博物館映像シアター（博物館2階） 参加費：500円（資料代として）
主催：博物館応援団Au会 共催：甲斐黄金村・湯之奥金山博物館
スケジュール（予定 ※発表時間は20分+質疑応答5分）

今回で4回目となる「博物館応援団Au会」の皆さんが企画開催する、研究発表会「金山遺跡・砂金研究フォーラム」。今年度は2月13日（土）に開催決定!

金山研究の発表や、金山博物館を拠点にフィールドワークを展開している皆さんの経験や体験、疑問点などをテーマに発表いたします。

タイトル、発表順番や演題など、詳細については確定し次第、博物館ホームページでもお知らせいたします。表題のとおり、各自の研究成果や情報を真面目に発信しつつ「誰もが気軽に参加できる発表会」がコンセプト。堅苦しく考えずお気軽においでください。参加お申込み・問い合わせは、湯之奥金山博物館内・湯之奥金山博物館応援団事務局（0556-36-0015）まで。

同日開催 2月13日(土) 11:00～13:00
錫キーホルダー作り体験教室

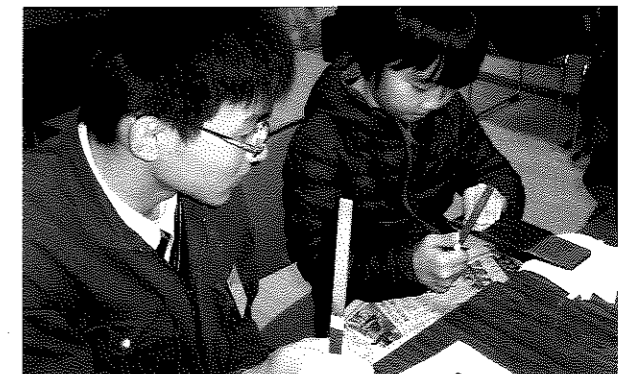
定 員：10人まで（先着順・定員になり次第締め切ります） 参加費：500円（材料費として）
対 象：小学生～一般（小さいお子様は保護者の方が同伴してください）
場 所：甲斐黄金村・湯之奥金山博物館多目的ホール

夏には、インターンシップ研修と砂金掘り大会選手として活躍した地元・峡南高校の皆さん。湯之奥金山博物館と山梨県立峡南高校では、体験研修を通して生徒たちの経験値や知識を豊かにする地元の官学連携事業として、様々なイベントを企画開催してきております。

毎年この時期行っている、地元・山梨県立峡南高校と湯之奥金山博物館との共催事業、錫キーホルダー作り体験教室を12月13日（日）に開催いたしました。この錫アクセサリ体験シリーズもマイナーチェンジを加えながら何回か開催しております。

講師役の生徒たちは、常に前回の反省点を改善して臨むように、引率の五十嵐先生からも言われてきました。そんな注意を払って臨んだ今回、今までの中で一番上手に進行でき、参加者の皆さんも怪我なく楽しくアクセサリ作りを経験してくれました。

次回は、2月13日に開催いたしますが、同日開催のフォーラムにおいでくださる方、是非体験も楽しんでいってください。





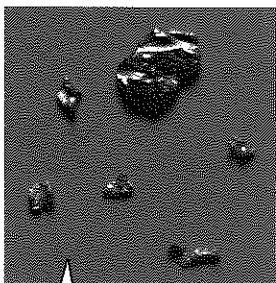
湯之奥金山博物館 人気商品

「ビックリ!砂金缶」 新春福缶バージョン限定発売!

あの砂金缶の2016年めでたいバージョン(限定20個)を販売いたします。気になる中身ですが、目玉は特大砂金!写真のように通常体験室で採れる砂金と比べれば一目瞭然!金色も一父さん置物も入ったお得缶。ラベルも新春仕様で通常砂金缶とは異なります。

ニューイヤーにちなんで価格は2016円です。決して損はさせません。特大砂金を狙って、しかもより大きな砂金を狙ってご購入ください。お子様やお孫さんへのお年玉代わりにも!?数に限りがありますのでご希望の方はお早めに。(特大砂金の形、大きさ、重さはそれぞれ異なりますので、予めご承知おきください。)

も一父さんグッズも充実!各種福袋もご用意しております。新春も金山博物館でお楽しみください。



通常砂金と比べたら、この大きさは一目瞭然。特大の中でもさらに特大が入ってるかも!?またの名を「絶対お得缶」!



こちらは通常の砂金缶。福缶バージョンはラベルもメテタイ!



編集後記

博物館の最近の、結構大きなニュースと言えば、新聞でも報じられましたように“例の事件”がひとまず解決したことでしょうか。多くの方にご心配をおかけいたしました。どうぞご安心ください。

心配の声を寄せてくださった皆さま、ありがとうございました。だからと言って油断禁物。年末年始、つつい気も緩みがち。皆様もそれぞれのお家のセキュリティーや防犯対策はしっかりしましょうね。

ここまで読んで「何のことだろう?」と思った方も「戸締り用心、火の用心」気を付けてください。

なお、例年通り、年末年始休館期間中は、すべてのお問い合わせ対応をお休みさせていただきますので、よろしくお願いいたします。そして表紙にもございますように、2016年は1月2日から開館いたします。新年も多くの皆様にとっての憩いの場にもなれますよう頑張ります。

冬時間(4月まで)の開館時間:午前9時~午後5時迄(受付は午後4時30分迄)

休館日:毎週水曜日(12月28日から翌年1月1日までの5日間は年末年始休館期間です。)

博物館だより

第74号 平成27年12月27日

〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先

TEL 0556-36-0015 FAX 0556-36-0003

博物館HPアドレス http://www.town.minobu.lg.jp/local_minobu/kinzan/index.html

博物館Eメール yunoking@town.minobu.lg.jp